

令和3年 住民基本台帳人口移動報告の 結果について

【資料2－3】

※図表等の出典について

P3,4：総務省「住民基本台帳人口移動報告2021年結果 結果の概要」

P5,6,7,8：住民基本台帳人口移動報告2021データより町作成

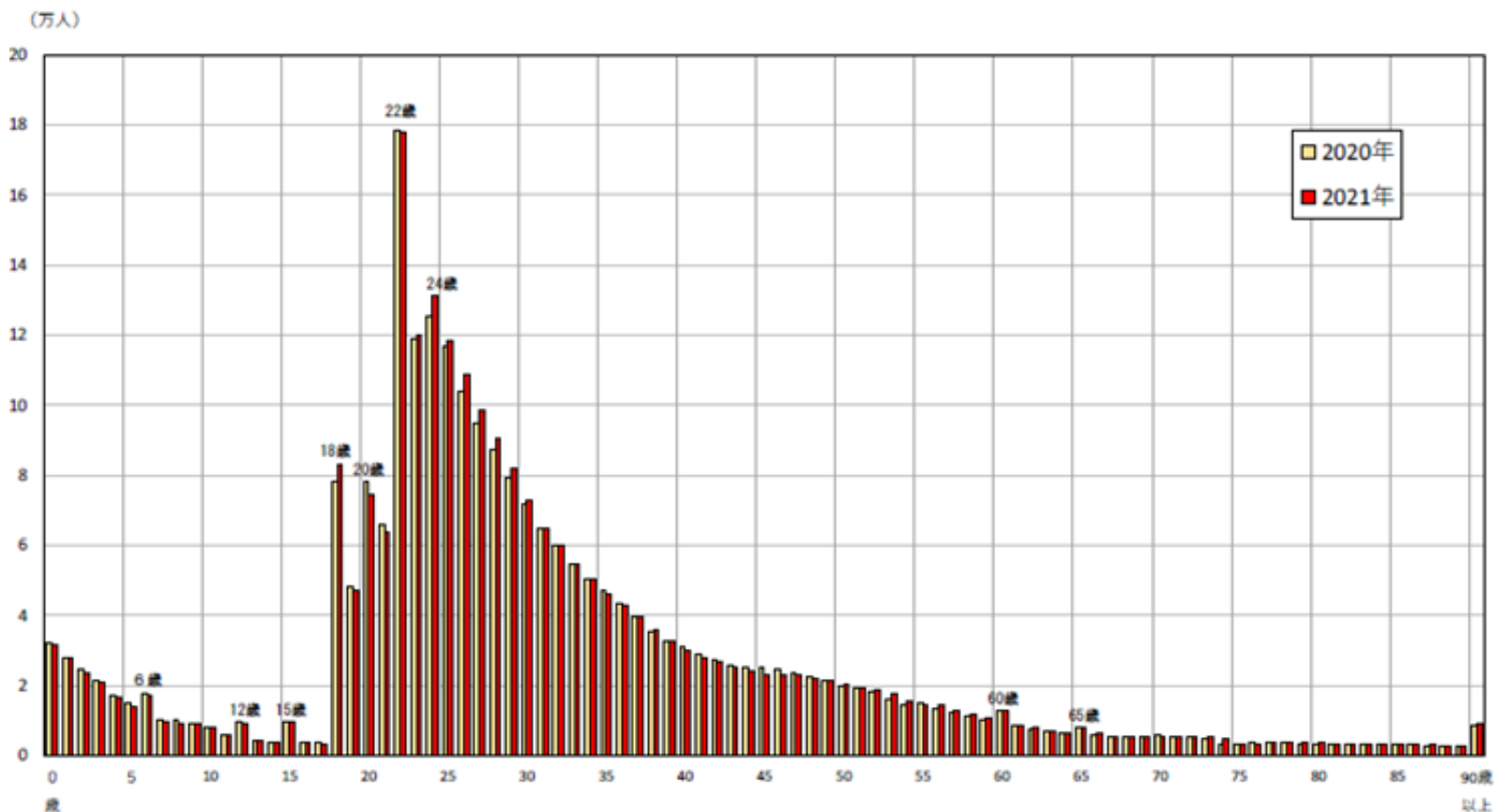
住民基本台帳人口移動報告とは

- 市区町村長が作成する住民基本台帳により、人口の移動状況を明らかにすることを目的とし集計したもの。（出生や死亡による増減は含まれていない）
- 平成26年（2014年）から外国人の移動についても集計に含めた。
- 月間と年間の集計結果が公表され、今回は令和3年1月～12月の調査結果。

年間を通した市区町村間の移動者数は2020年から0.2%減
ではほぼ横ばい。
就職や就職して数年間の移動が最も多い傾向に変化はない。
学校の卒入学も移動のきっかけに。

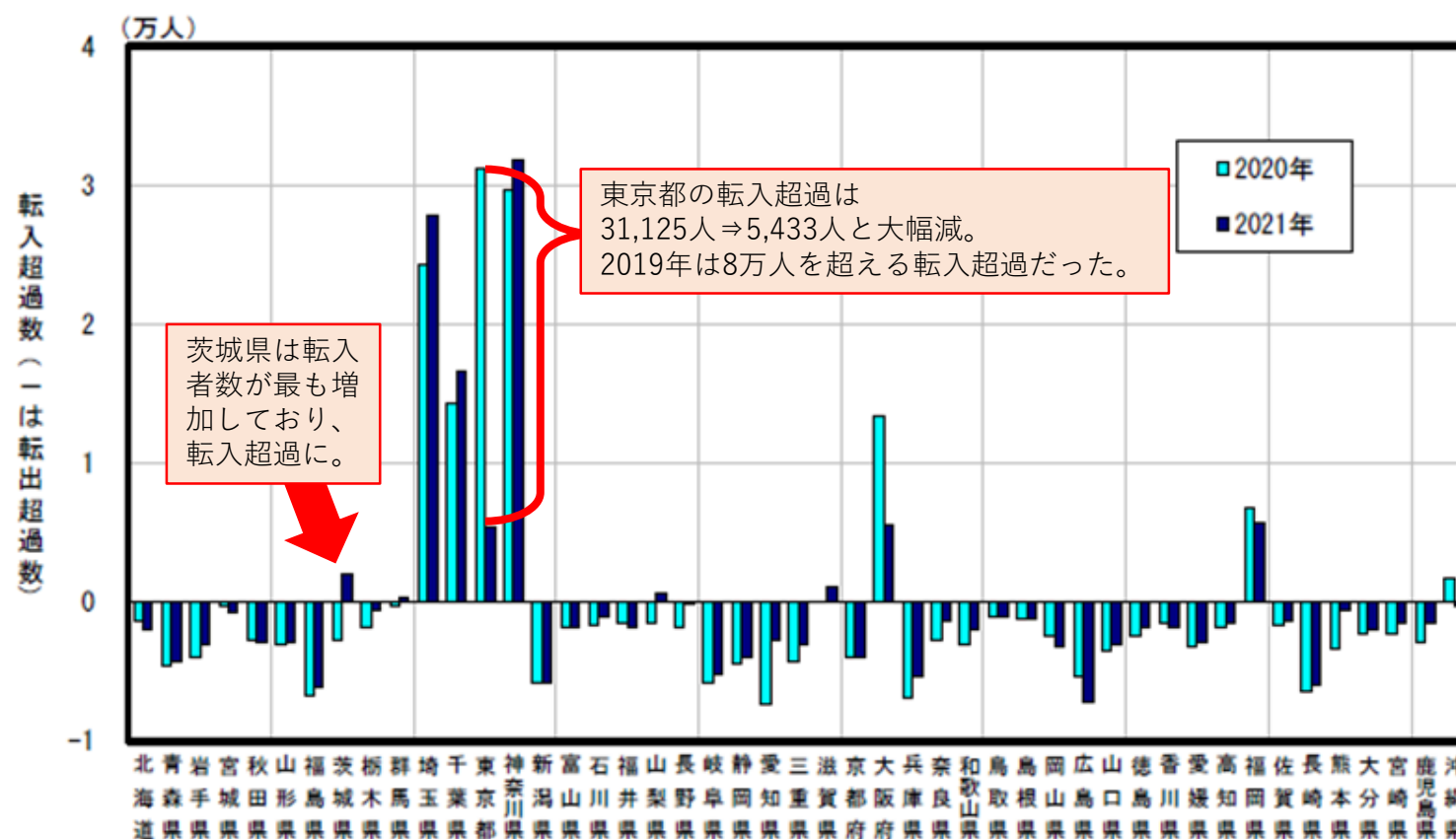
移動数 【国】

図3 年齢各歳別都道府県間移動者数（2020年，2021年）



転入超過が10都府県、転出超過が37道府県。
東京都の転入超過数は大きく減少。東京都特別区部では転出超過となった。
茨城県は転出超過から転入超過となった。

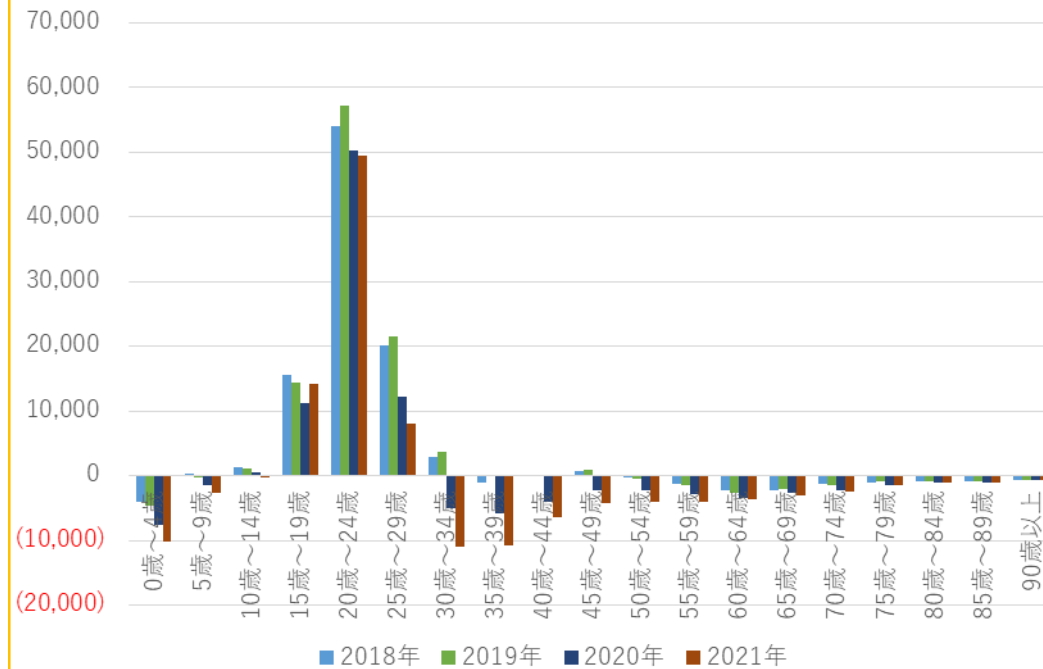
図5 都道府県別転入超過数（2020年、2021年）



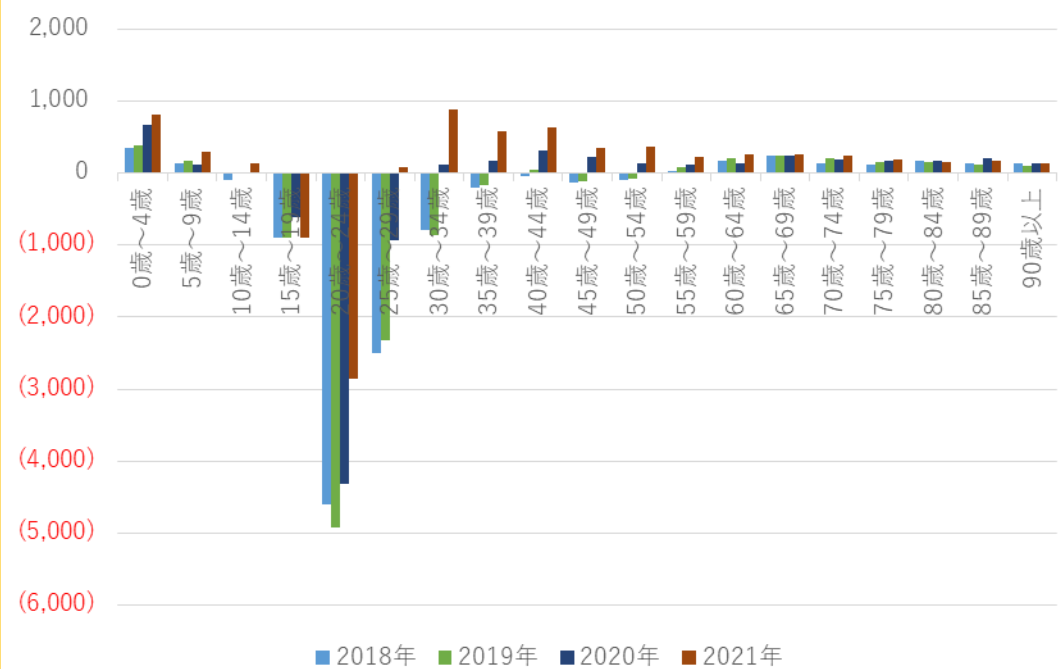
東京都は転入超過だが、コロナ禍をきっかけに子育て世代を中心に転出超過が拡大。0～4歳はコロナ前から転出超過。
茨城県はコロナ禍をきっかけに特に20歳代、30歳代の転出超過が大きく変化。0～4歳はコロナ前から転入超過。

都道府県 傾向【県】

東京都 5歳別 転入超過数

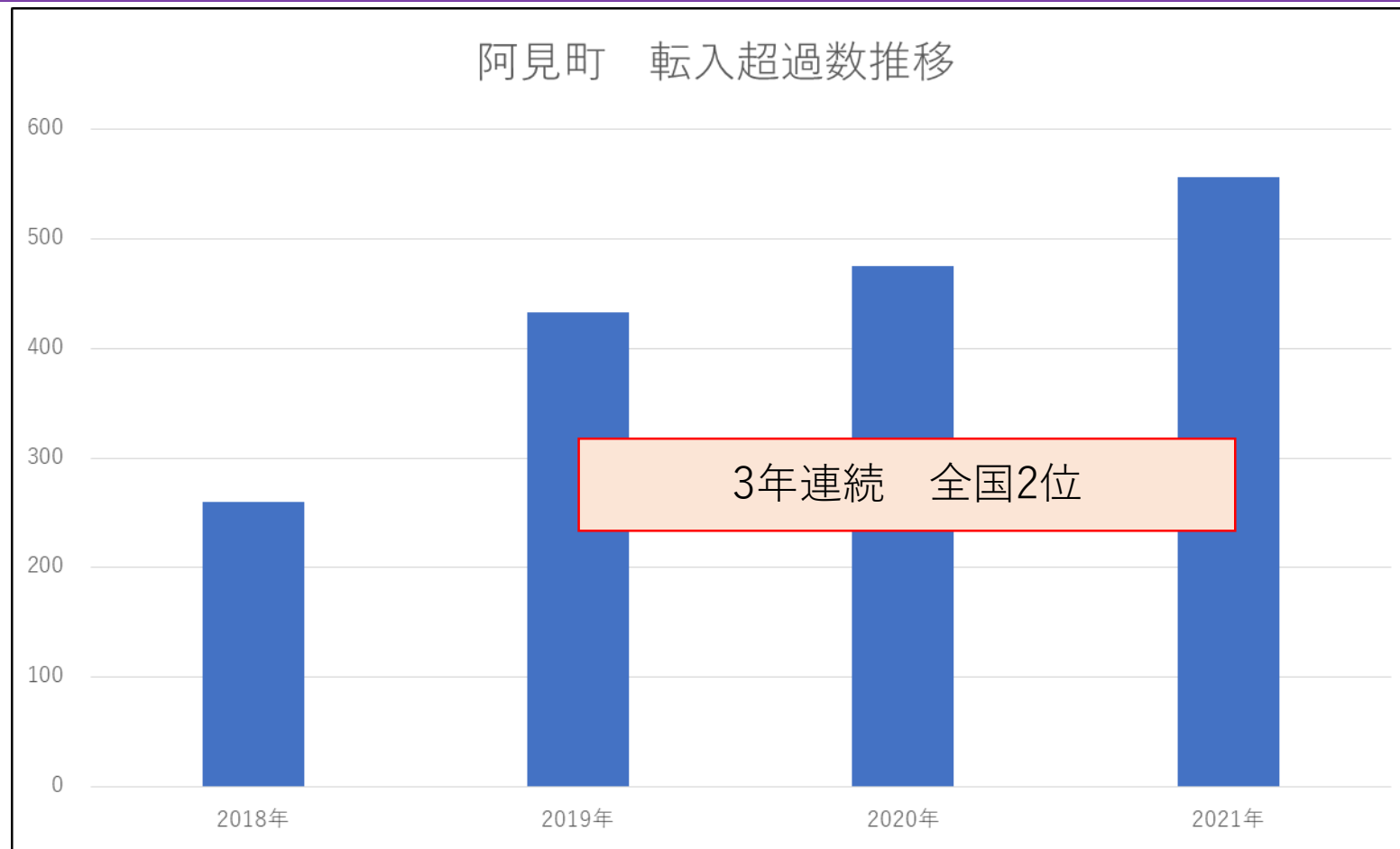


茨城県 5歳別 転入超過数



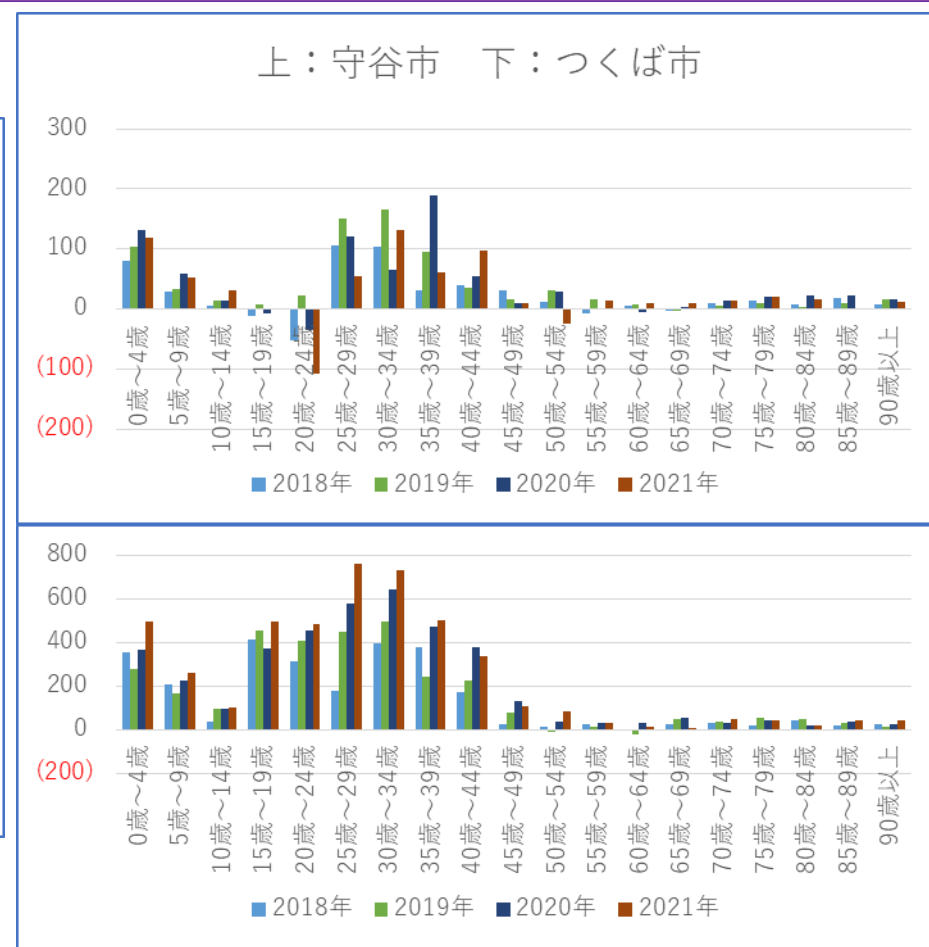
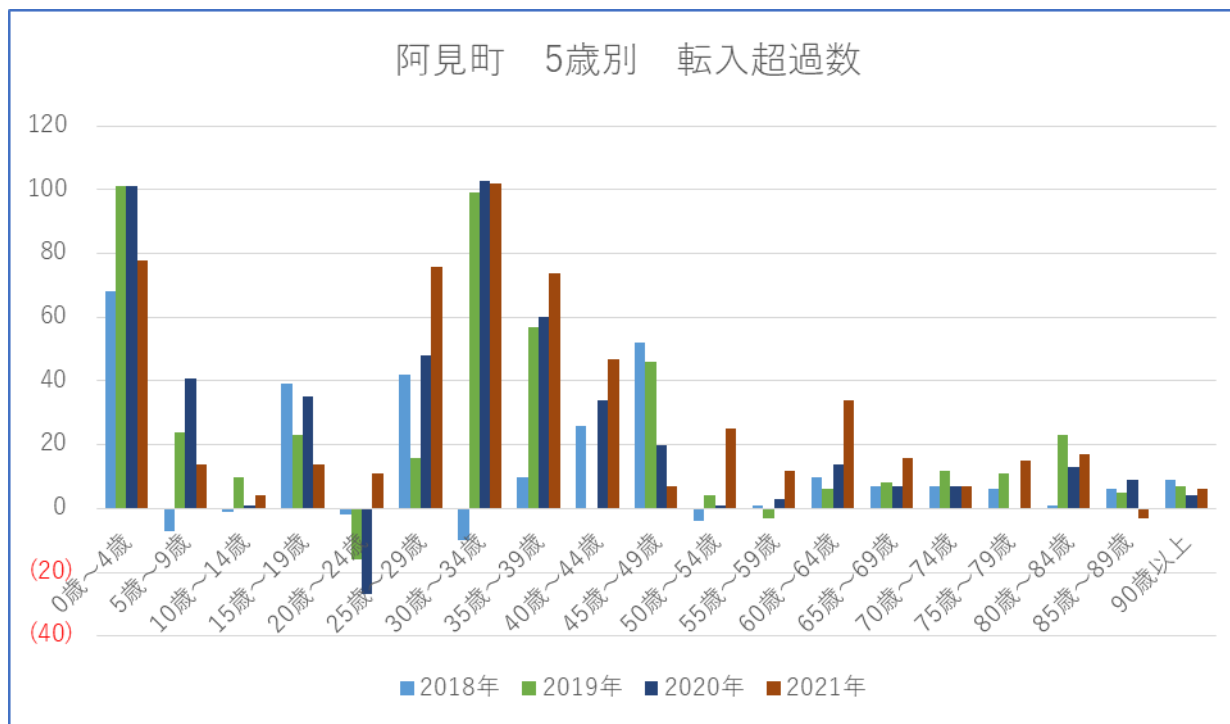
阿見町は転入超過が続いており、直近4年間は増加傾向。
全国“町村”では3年連続で全国2位となっており、茨城県内
でもつくば市、守谷市に次いで近年の転入超過が多い。

転入超過 推移【町】



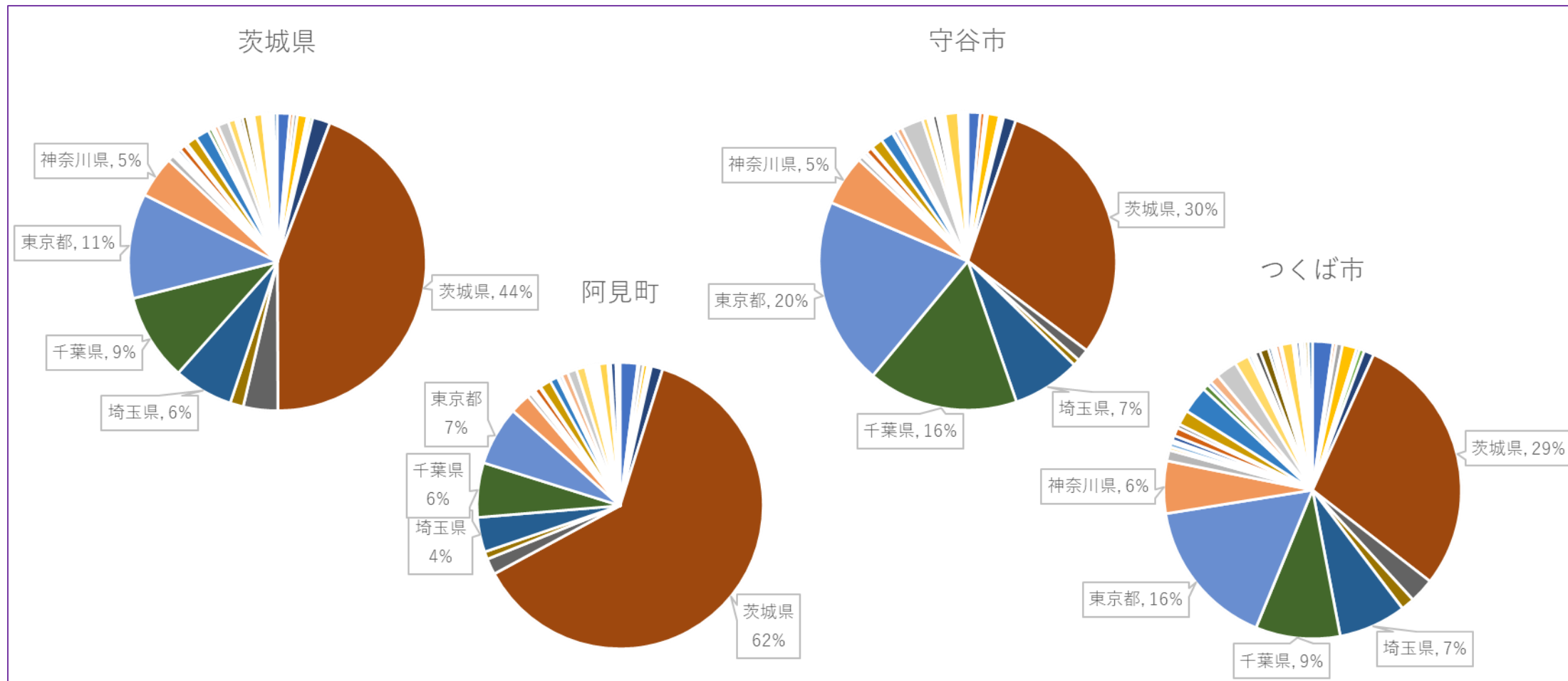
阿見町の転入超過数は0歳～4歳、30歳～34歳を中心に子育て世代で大きくなっており、他の世代も含めた傾向は守谷市、つくば市と似ている。

人口推移 比較【町】



転入者の転入前住所では、阿見町では約6割を茨城県内からの転入となっており、茨城県全体の割合を大きく上回る。

転入前住所 【町】



まとめ

- コロナ禍で人の移動は減少しているが、移動のタイミングには変化がない。
- 一方で、移動先は大きく変化し、コロナ禍までの東京一極集中の状況には変化が生じている。
- 東京都では子育て世代の流出が拡大しており、茨城県内の人口増の市町村では子育て世代が流入している。
- 阿見町でも子育て世代の流入傾向だが、転入者の割合でみると必ずしも東京の変化だけが要因ではない様子。